

豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構

ペナンだより（グローバルFD）

（第1号 平成27年2月16日）



■ はじめに

国立大学改革強化推進事業（三機関連携事業）の一環として、グローバル指向人材育成に必要となる教員（国立高等専門学校教員を含む）の能力強化として、英語による教育指導法を習得させるとともに、異文化間コミュニケーション能力の向上を目的とした「教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期FD）」に取り組んでいます。

平成26年度の本グローバルFDプログラムで研修中の高専教員（10名）が、ニューヨーク市立大学クイーンズ校（通称：QC）での6ヶ月間（2014年6月30日～12月24日）の英語研修を終え、本プログラムの最終段階として、約2ヵ月間の本学ペナン校（昨年12月にマレーシア・ペナン州に設置した教育拠点）を拠点とした研修をスタートさせました（2015年1月11日～3月9日）。

現地では、これまでスキルアップしてきた「英語コミュニケーション能力」と「英語で授業を行う教授法」の実践として、マレーシア科学大学（USM）等での英語での授業を実施します。授業内容は、「*Engineering Technologies for the Realization of a Safe and Reliable Automobile-Oriented Society*」を共通テーマとして、高専教員それぞれの専門分野のテクノロジーが、自動車および自動車社会の実現において、どのように関わっているのかを体系的に整理して、わかりやすく英語で教授する予定です。これを機会に、グローバルFD研修者のペナン校での実践的英語教育の様子やペナンでの生活情報等を「ペナンだより（グローバルFD）」として三機関に配信させていただくことにいたしました。

三機関各位のご意見やご希望を伺いながら、本プログラムの取り組みに反映させていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人豊橋技術科学大学 理事・副学長
グローバル工学教育推進機構 機構長 井上光輝

■ 主要活動報告

ペナンでの講義

東京高専 水戸慎一郎

昨年 4 月から続いてきたグローバル人材育成力強化プログラムも最終段階に入り、現在はマレーシアのペナン島にある豊橋技術科学大学マレーシア海外拠点で活動しています。ペナン島は 16 世紀頃からヨーロッパとアジアを結ぶ貿易港として繁栄し、西洋の影響を強く受けながら、マレー系、中華系、インド系が混在する東南アジアでも類まれな多民族・多文化社会を形成してきました。このような東西世界をめぐる歴史から、ペナン島のジョージタウンは世界遺産に登録されています。一方でペナン周辺は 1972 年に輸出加工区に指定されて以降、インテル、ヒューレット・パッカード、モトローラ等の米国系を中心に、日立製作所等の日系を含めた半導体メーカーが進出しており、1980 年代以降はアジアでも有数の電気・電子産業の集積地となっています。このような状況を受け、ペナンには優秀な工学系教育機関が多数設置されています。

私達の目的は、当地にある Universiti Sains Malaysia (USM), Politeknik Seberang Perai (PSP), Penang Skills Development Centre (PSDC), DISTED College 等で授業を行い、この一年で学んだ教育手法や英語表現を実践で用いることです。2 時間の授業を 2 種類用意し、最大 150 人程度の学生、教員、社会人を相手に授業を行っています。私は 1 月 14 日に USM の工学部キャンパスにおいて、当プログラム最初の授業を担当させて頂きました。通された会場は大スクリーンがそびえる立派なもの。参加者が集まるのを待って、予定の 5 分後に開始。会場の中心に歩み出て、参加者を見回していると、用意していたマレー語の挨拶は頭から霧散し、結局英語で挨拶しました。マレーシア英語のアクセントには苦しめられましたが、挨拶以外、用意していたことはやれたかなと思います。参加者は教員や大学院生を中心とした 25 人ほどで、想定していたよりも専門知識のある人が集まりました。

今は 1 月 30 日。私は USM(マレーシアサイインズ大学)の 2 キャンパスと PSDC(Penang Skills Development Centre)での講義を終え、この原稿を書いています。すべての講義で手応えと課題を得ることが出来ましたが、一つ強く感じたのは、学生の協力の重要性です。この 1 年、様々な教育手法を学びましたが、その多くは学生の協力をいかに引き出すかというものでした。英語でも、日本語でも、学生と協調しながら良い授業を行っていかれると思います。

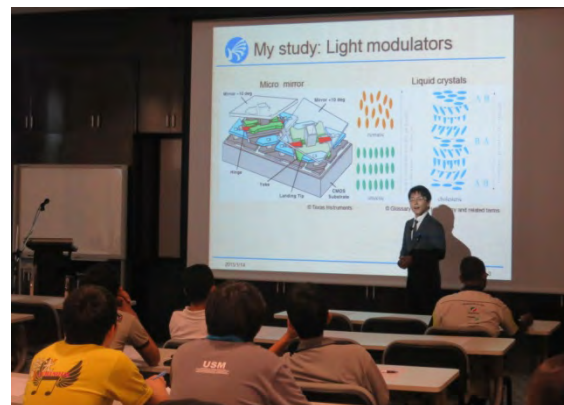


Fig1. The lecture at USM

ペナン島観光案内

仙台高等専門学校 小林秀幸

ペナン島は、世界遺産のあるリゾート地であるという情報は周知のことかと思いますが、では具体的にどのような観光地があるのかとなるとイメージしづらいものではないでしょうか？今回は、私が見てきたペナン島の楽しい場所をご紹介しますと思います。

ペナン島にはジョージタウンという世界遺産があります。イギリス植民地時代の風情が残されており、夜はライトアップされている箇所がありますので、個人的には、夜に行くのがお勧めです。ただ、ここはリゾートっぽくはありません。

南の島のリゾートといえば、やはり、別荘にプールではないでしょうか？我々が豊橋技術科学大学ペナン校には、貯水池があり、同大水泳部元主将の筆者としては泳ぐ以外の選択肢はありません。写真は、水遊びをしている筆者です。

大分、リゾートのような雰囲気にはなりましたが、やはりどこか物足りません。足りないものが何かと考えると、南の島なのにビーチがないということがお分かりになるかと思います。ジョージタウンのそばには、浜辺はありますが、泳ぐような場所ではありません。これは由々しき事態です。しかしながら、ご安心下さい。島の北側にはペナン国立公園という公園があり、その中に、2つ泳げるビーチがあります。国立公園の入口までは、図2のようなホップオンホップオフバスという、オープンデッキのバスで向かうことをお勧めします。風が気持ち良いですし、視線の高いところから観るペナンの町並みも最高です。国立公園の入り口からは、熱帯の森を2時間弱ほど歩いてビーチに向かうルートと、漁船のような船を借りて向かうルートの二種類があります。筆者らは、行きは歩き、帰りは船というルートを選びました。少々険しい道ですが、熱帯の動植物が見られ楽しい行程です。海上の漁村を脇目に、ビーチをひとつ通り過ぎた先に、小さい野生のサルたちが迎えてくれるモンキービーチというビーチがあります。ハンモックや木からぶら下がるブランコ、きれいな砂浜があり、まさに想像する通りの南の島のリゾートがそこにはあります。ゆったりとした贅沢な時間を過ごすことが出来ます。帰りは、図3のようなビーチから出る船に乗り帰ったのですが、その船はちょっとしたアトラクションよりも怖いです。船が空を飛び、人が椅子から飛ぶ姿を生まれて初めて見ました。基本は安全に運んでくれます。楽しいので一度体験していただくことをおすすめします。

ペナンは食事も安くて美味しいのですが、その辺りの解説は、紙面の関係で、別の方にお譲りしたいと思います。ペナン校に来られる際は、少し足を伸ばして観光をしてみたいかがでしょうか？



図1 ペナン校貯水池で泳ぐ筆者



図2 観光バス



図3 モンキービーチと渡し船

豊橋技術科学大学
グローバル工学教育推進機構
国際教育センター
愛知県豊橋市雲雀ヶ丘 1-1
Tel:0532-81-5161
Mail:unireform@office.tut.ac.jp

**Toyohashi University of Technology,
Institute for Global Network Innovation in
Technology Education
News from Penang
(Vol.1 2015/2/16)**



■ Reports

Lectures in Penang

Shinichiro Mito, National Institute of Technology, Tokyo College

The program, which started in last April, is in the final stage now. We are staying at Toyohashi University of Technology (TUT) - Universiti Sains Malaysia (USM) Technology Collaboration Centre in Penang Island in Malaysia. Penang Island has been prospering as a trading port connecting Europe and Asia from 16 century. That is why Penang has the unique multiethnic, multicultural, and Europe-influenced society which mainly consists of Malaysian, Chinese, and Indian. Since the interesting history and culture, George Town in Penang Island has been selected as a world heritage. On the other hand, Penang state was designated as an Export Processing Zone (EPZ) in 1972, and many semiconductor companies moved in Penang, Such as Intel, Hewlett Packard, Motorola, and Hitachi. Therefore, Penang becomes one of the largest centers of Asia's electric and electronic industries form 1980. Given this situation, there are many good engineering educational institutions in Penang.

Our purpose is that giving lectures at local educational institutions, for instance Universiti Sains Malaysia (USM), Politeknik Seberang Perai (PSP), Penang Skills Development Centre (PSDC), and DISTED College, and using the knowledge and skills what we learned from this program in practical situation. I prepared two types of two hours lecture. Typically we have up to 150 participants including undergraduate, graduate, faculty, and business person. I conducted the first lectures of this program at USM Engineering campus at January 14. The lecture room, which has large screen and good wall decoration, was great. After weighting the participants five minutes, I started my lecture. I was walking up to the center of the room, and then looking around the participants. I have to confess, I forgot Malaysian greetings what I had prepared. Although it was hard to catch Malaysian English, I think I gave the things what I had prepared except the greetings. I had about 25 people, about half graduate students and the other including faculty, business person, and two undergraduate. Participants have more expertise than I had expected.

Today is January 30; I am writing this article after doing four lectures in USM and PSDC. I have got a confidence and assignments form all lectures. The first thing I strong felt was that I have to get students in a lecture. Almost of all techniques what I have learned this year is how to get students in a lecture. I will make courses with students either in English or Japanese.

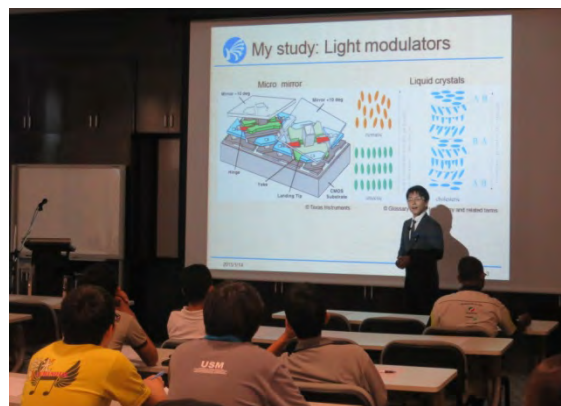


Fig1. The lecture at USM

Sightseeing in Penang

Hideyuki Kobayashi, National Institute of Technology, Sendai College

Penang has a world heritage which is called George Town. If you went to George Town, you could feel atmosphere of 17 century England. I recommend you should go to George Town at night because they are lighted up. Perhaps you have heard Penang is a kind of resort; however, George Town does not look like a resort.

I think resort has pools and villas. Fortunately, Toyohashi University of Technology Penang Campus has a reservoir. When I was student, I was a captain of TUT Swimming Club; therefore, I have to swim on the reservoir. By the way, do you agree an opinion that Penang is a resort? If your answer is “No.”, I strong agree with you.

If Penang is a resort on south island, we need beaches; however, you do not be afraid. Penang has beaches on the north part. There is a national park in Penang. It has two beaches. If you want to go there, you can choose way by work or took a boat. If you go there by your foot, you will work about two hours with looking native trees and animals. If you take a boat, your boat fly to sky. These beaches have hammocks, seat swings on a tree and beautiful sand. I strongly recommend you should go there.



Fig.1 Reservoir in Penang Campus



Fig.3 Monkey beach



Fig.2 Hop-On Hop-Off Bus

Toyohashi University of Technology
Institute for Global Network Innovation in Technology Education
Center for International Education
1-1, Hibarigaoka, Tempaku-cho, Toyohashi, Aichi, Japan
Tel:+81-532-81-5161
Mail:unireform@office.tut.ac.jp